

2009年度早稲田大学本庄高等学院学校評価  
学校関係者評価報告書

2009年度早稲田大学本庄高等学院学校評価の学校関係者評価は、本学院保護者の会  
会長西本好雄氏、本学院同窓会副会長原岡修吾氏、埼玉県児玉郡上里町立上里中学校校長  
根岸康雄氏を評価委員に委嘱して実施した。評価は2009年度自己評価報告書を始めと  
する下記の資料の検討、7月3日(土)に本学院で実施した学校評価運営委員からの聞き  
取り、及び施設視察によって行なった。西本氏は保護者の立場から、原岡氏は卒業生の立  
場から、根岸氏は本学院が所在する本庄児玉地区の教育関係者の立場から、それぞれ独自  
に評価した。

調査資料

2009年度早稲田大学本庄高等学院自己評価報告書  
本庄高等学院学則  
進級・卒業基準  
学期成績・学年成績の記入について  
生徒表彰規程  
奨学生の選考に関する内規  
学内奨学生の候補者選考に関する内規  
保護者の会会則  
保護者の会会計規則  
同窓会会則  
後援会会則  
研究紀要投稿規定  
卒業論文を書くにあたって(2009年度)  
学院案内(2010年度・2011年度)  
入学試験要項(2010年度)  
学院生活のしおり(2009年度・2010年度)  
学院行事予定表(2009年度・2010年度)  
委託ホーム概要  
ホーム生活の手引き(2010年度)  
緑風 - 早稲田大学本庄高等学院通信(25号・26号・27号)  
杜 - 保護者の会だより(33号)

各評価委員による評価報告は以下の通りである。なお掲載順は氏名の五十音順とする。

・保護者の会会長 西本好雄

## 1. 教育活動

### 授業

学年が上がると選択科目が増え、希望学部を踏まえて選択できる制度は本学院の特色であり素晴らしいと思う。第2外国語の選択も増えて充実していてよいと思います。

また、卒業論文は開校以来の伝統で素晴らしいと思います。大学生でも専門分野で2年間の成果として作成するものを1年で書き上げる事は生徒にとっても負担ではあると思いますが、作成した自信は大学に入っても生かされると思います。

### 課外教育

体育祭・稲陵祭・球技大会等は各大会の実行委員会が主体と成り生徒が運営していると感じられました。特に実行委員長は女子生徒が多く、共学化の中で女性の活発さを感じました。

人権教育では水谷修講師の話聞いた男子生徒が感動して、普段は無口なのにその日は親に熱く話ってくれたと保護者会幹事の保護者から言われました。是非このような機会を多く持てるようにして下さい。

### 課外活動

クラブ活動は文化系や体育系を問わずに活発に行なわれていると感じます。関東大会に出場するクラブも多く、その上の全国大会に出場したクラブも増えている現状は素晴らしいと思います。今後も頑張ってもらいたいと思います。

### 国内外交流・研修

修学旅行は3箇所に分かれ、各地域で地元の学校生徒と交流する事は生徒にとっても良い結果が出ていると思います。SSHを初めとして多くの交流が持たれています。参加された生徒の保護者からは良かったと聞いていますが、多くの生徒に積極的に参加してほしい。

## 2. 生徒への対応

### 生徒受入

入試は一般入試、帰国生入試、選抜、I選抜、地元指定校推薦、一般指定校推薦と多くの方法で行ない、特色のある生徒が入学している。募集枠より多くの優秀な女子生徒が入学しているので、女子生徒の募集人数を増やしても良いのではないかと思います。

地元指定校では、中学入学時には早稲田大学本庄高等学院の推薦成績基準を知らないで3年になってから後悔している生徒もいると聞いています。それでも本庄市内の学校では推薦枠に達しているので問題はないのかもしれません。

### カウンセリング

心因的な事も含めて、登校出来なくなる生徒が毎年何人かはいると聞いています。カウンセリングによって復帰できた生徒もいると聞きました。本学院だけでなく、社会的にも心因的な原因で登校や出社が出来ない人が増えています。ぜひ充実した

カウンセリングをして頂きたいと思います。

### 3. 教育研究施設

#### 教育環境

定員の増加によりテスト時等に苦労していると聞いています。新校舎の建設が決まり期待していますが、その間にテニスコート等がなくなります。クラブ活動等になるべく支障をきたさないように配慮してください。

スクールバスは寄居便が2便になり、雨天時には本庄便が少し窮屈になると聞いています。一方、委託会社を朝日自動車に変更したことで本庄駅南口ロータリーで乗降ができ、便利になったと聞きました。

委託ホームは開校以来続いている本学院の特色の一つだと思っています。新幹線の駅設置や女子の入学等でホーム生は減少していますが、残してほしい制度です。委託ホームにも施設の老朽化やホストの高齢化等の問題も多くあると思いますが存続出来るように対処してほしいと思います。

また、セミナーハウスがドミトリーとなり、合宿施設の問題もホームの活用だけでは無理があると思います。合宿施設も対処してほしいと思います。

### 4. 社会との連携

#### 保護者との連携

保護者会は年2回行なわれていますが、多くの保護者が出席して関心の大きさを見ることが出来ます。昨年、保護者の会が作成したDVDやホームページの写真掲載等で学院にご迷惑をお掛けした事をお詫びいたします。女子生徒の入学と個人情報保護法から今までの様なホームページのやり方やDVDの作成は過渡期に来ているのではないかと思います。今後十分注意し保護者の会としても対処したいと思えます。

総括的にみて本学院の現状を的確に評価してあると思います。今後、問題点を解決してもらい、より良い学校を目指していただきたいと思います

・上里町立上里中学校長 根岸康雄

本学院入学を志す中学生は、早稲田大学の教育に対する基本理念のもとに、高校大学の一貫した教育を受けることを期待し受験し入学していく。地元児玉郡本庄市にとって本学院及び早稲田大学関連施設は、文化の拠点でもある。そこで、このことを踏まえ報告する。

## 1. 受験制度

### 男女共学について

男女共学は、女子生徒に対しても門戸を開いたことにより、本学院において学びたい、教育を受けたいと願う女子生徒の希望が叶うこととなり前進した政策である。募集形態の多様化について

様々な募集形態があることは、幅広い人材が集まることとなる。実際に、学問だけでなく芸術やスポーツを得意とする人や、日本中から世界各国からも多くの生徒が入学している。そのため、生徒は多様な文化や考え方に出会うことができ、学びの幅が広がると共に「自由な精神」の育成を目指す趣旨からもよいことと思う。

### 附属高校の受験日について

現行の制度は、早稲田大学の教育理念のもと高大一貫教育を強く希望する生徒にとって二度の機会が与えられるため、学力が試験に反映しやすく、受験生としては結果を受け入れやすい。

## 2. 教育課程・教育活動

### 教育課程について

入学する生徒は、早稲田大学建学の精神のもと、7年間の系統立てた教育が受けられることを期待している。その実現に向け、教育方針に基づき教育課程が整備されており良好と思う。具体的には、1・2年で必修科目の多くを履修し3年で14単位にも及び選択科目をおき、大学への専門性の接続を図っている。特筆すべきは卒業論文である。入学した当初から生徒は、卒業論文を意識し取り組んでいるのではないだろうか。論文を書くことは、教育方針にあるとおり、断片的な知識の集積ではなく、総合的な理解力やまとめ上げる気力や体力、様々なことに気付く感性、論理的な思考力や、考え方を伝える表現力などが必要であり、「自ら学び、自ら問う」の実践である。また、生徒は卒業論文を書き上げたことで、多くの達成感を持ち、大学への入学の意欲へと繋がり、自校に対する誇りが育つ実践である。より一層の充実を期待したい。

### 高大一貫教育について

高大一貫教育を具現化したものとして、課外講義や開放科目、サマーセミナーやウインターセミナーなどが1年から計画的に実施されている。このことは、学習意欲、より深い専門性に触れる、学部の内容を知る、大学への見通し、など生徒に対して多くの示唆を与えるものである。

### 国際化について

感性豊かな若い時代に外国の文化や人に触れることは国際理解にとって大変重要

であるとする。修学旅行をはじめとして、共同研究や合同発表、生徒会やクラブ活動においての多くの交流プログラムが計画されており生徒にとって有意義なものである。

#### 教育環境について

雄大な敷地と自然の中で、充実した様々な施設が配置され、学びの場にふさわしい良好な環境である。特に、大久保山を中心とする自然環境は、自然との共生の学びの場でもある。先人たちが自然から恵みを受け、自然から学び、自然と共に生き循環型社会として日本文化を築いてきたことを体感させて欲しい。体験により培った自然への感性は、これからの社会を築くうえで重要な要素になると考える。

#### クラブ活動について

運動部と文化部が数多く設置されている。その中で生徒は、授業である学問と共に、自分の興味関心に基づき伸び伸びとクラブ活動に取り組んでいる様子がうかがえる。クラブ活動では、自己の能力の向上、再発見、人間関係の大切さやその方策を学ぶとが出来る。グラウンド等の施設も充実している。また、クラブ活動は同じ釜の飯を食べるといのように人間関係を通して生涯の友を得ることも多く、更に充実させたい。

### 3. 生徒への配慮

#### 奨学金制度について

高校生の中には、経済的理由で就学を断念せざるを得ない生徒もいるときく。本学院においてはいくつかの奨学金制度も設置されているが、定員が少ないため制度を利用できない生徒も出てくると予想される。生徒の環境を十分考慮し、現制度の運用の幅を広げるなどして、入学した生徒には卒業まで支援できる制度の構築をお願いしたい。

#### 生徒支援、生徒指導・教育相談、カウンセリング等について

高校に入学すると遠距離の通学となったり、親元を離れて委託ホームでの生活となったりと、中学時代に比べ生活環境や人間関係が大きく変わる。また、入試に合格して入学したことにより目標を見失うケースも出てくる。生徒の中にはこのような環境変化に柔軟に対応できない場合もあり、様々な問題行動となって現れてくることがある。本学院においては、臨床心理士を配置するなど組織的な対応を行なっているところではあるが、今後、問題行動も更に多様化していくことが予想される。そこで、生徒一人一人の状況に柔軟に対応することができるよう、一層の生徒支援体制の充実を望む。

### 4. 地域とのつながり

大久保山を拠点とする本学院及び早稲田大学関連施設は、地域の文化の拠点であると感じている。早稲田リサーチパークにおいての様々な企画も、科学の好きな生徒にとっては魅力的である。また、陸上競技場等もお借りして、児玉郡市中学生の陸上競技の大会を開催させていただいている。本学院生をはじめとする次世代を担う有能な若者が集う大久保山周辺は、地域においても誇れる早稲田の杜となっている。今後も地域との交

流や文化の発信を更に進めて欲しいと感じている。

## 1. 教育活動

### 授業

#### a. 必修科目

自分で考える前に質問をする生徒が多いという背景に、質問をすれば先生からの印象が良くなり、成績評価の際にプラスの影響があると考えている生徒がいるのではないかと。授業に関しても、試験とあまり関係のないと思われる内容については興味を少し薄れるということは、本庄高等学院の特色である、受験勉強にとらわれることなく本当の意味での学問を学ぶ精神（自ら問い、自ら学ぶ精神）から遠ざかっている。

生徒には授業に対して「試験で良い点数をとること」を最大の目的としてのぞむのではなく、真にその教科の意味や楽しさ、必要性を認識してほしい。

#### b. 選択科目

設置科目が101科目とたくさんあるのは魅力的であるが、選択科目によって「楽な科目」といった位置づけがされないように気をつける必要がある。

#### c. 卒業論文

創立以来続けられている卒業論文は本庄高等学院の大きな特色でもあり、生徒の力を伸ばすためにも非常に有効で今後も力をいれていくべきである。ただし、評価教員選択について、選択権が生徒にあるため、必ずしも教員の得意分野でなくても担当をしてしまうケースがあるようなので、担当教員選択についてはもうすこし改善の必要があると感じる。

### 国内外交流・研修

#### a. 修学旅行

創立時の中国のみの修学旅行から現在は北京・台湾・韓国の3コースから選ぶということであるが、各コースの内容、費用的なバランスについて公平（分かりやすい）であることが重要であると感じた。

## 2. 委託ホーム

委託ホームは創立から本学院の最大の特徴（魅力）であった。しかし、近年は経済的な事情や新幹線の開通などにより委託ホーム生が減少していることは残念である。委託ホームでの生活（経験）は生徒にとって非常に有意義である。高校時代に親元から離れ自己管理をすることは生徒を大きく成長させる。また、ホーム生活をともにした友人たちは生涯においてかけがえのない存在となっている、など委託ホームの価値は語り尽くせない。今後は少しでも委託ホーム生が増加するような策を講じる必要があると感じる。

上記以外の項目についてはその内容、理念、必要性、運営状況などどれも現状の手法（考え方）で問題がないと評価する。